



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（桓文社）
「郷土とことわざ」（人間の科学新社・共著）等

「続 おっかなの晩げ」

県内に点在して伝わる行事「おっかなの晩げ」、その名称も、戸口に魔除けのためにザルをぶら下げる行為も、摩訶不思議でユニークなものだということを先回お伝えしました。筆者は事あるごとに、それも知っていそげな人に、「おっかなの晩げ」について聞き取り調査（別名立ち話・茶飲み話）を実施してきましたが、依然謎のまま。どうやら本県のみの独特な行事のようです。ということは、新潟県の無形民俗文化財（風俗慣習）に匹敵するほどの貴重な習わしかも知れないと勝手に推測・判断して調査の手を広げていきました。

キーワードは「日にち、魔物、ザル、他県の有無」。すると思わぬ事に出くわしたのです！

「おっかなの晩げ」はおおむね12月7日、所によっては2月7日の両日で、この日「おっかね一つ目（地域により三つ目）の魔物」が県内に出没するといいます。この習慣のある阿賀北、魚沼はとくに寒さ厳しく、積雪も多いことで知られていますが、二十四節気で12月7日は「大雪」です。2月7日は特別な日でもなさそうです。あえて言えば、近年では「北方領土の日」といったところで、地方の伝統習俗とは格段関わりもみられません。大雪が積もる日にわざわざザルを掲げるのも不思議です。ましてやザルを国旗に見立てて掲げるはずありません。なにより、そんな大雪の夜一つ目魔物がわざわざ来るのだろうか？魔物は雪男か？大の雪男がザルを怖がるのか？疑問は果てしなく湧き出てきます。

そこで「ザル」と魔除けの関係を調べてみました。すると、神奈川方面から「魔除けにザル！」の朗報が飛び込んできました！なんと、神奈川（相模、湘南地方）では、その昔「コトはじめ」の夜は

魔物よけに戸口にザルやカゴを下げる習慣があった、というのです。「コトはじめ」とは、陰暦2月の8日（！）、針供養の日です。こんにやくか豆腐に日頃お世話になった針を刺して供養するほかに、この地ではザルで魔除けをするモノ忌みの習慣があったようです。始めあれば終わりあり、「コトおさ（納）め」が陰暦12月8日でした。どちらも「モノ忌み」の日で、調べてみると、その昔関東は2月8日、関西は12月8日に「ヨウカゾー」もしくは「ヨウカドー」（スーパーではない！）の名の魔物が出現するため退治として行われてきたといえます。

この「モノ忌み」の日が、新潟県では8日の前日である7日の晩から「おっかなの晩げ」として翌朝まで行われてきたのです。しかも、日本の文化習俗やことばに東西の要素がみられる本県には、関東の「コトはじめ」にあたる2月と関西の「コトおさめ」の12月の行事が、関西式で行われる地と、東西融合の両月に行われる地があったのです！

戸口に下げたザルは、魔物が「去る（サル）」→「ザル」という洒落の意でもあり、さらにザルの目（カゴ目）の形は六芒星で、あのダビデの星にもみられるように古今東西古来より魔除けのシンボルに通ずる意味もあったとの見方もできます。

調べるほどに興味つきないこの習わし。本県が東西の文化や習俗を生活のなかに巧みに取り入れて、独自の行事として継承してきた証といえましょう。

